

増え続ける小児甲状腺がん112人に

放射能との因果関係を認めない検討委員会

原発事故後に始まった子どもたちの甲状腺の状態を把握するための先行検査において、108人の小児甲状腺がん（24名の疑いを含む）が見つかり、そのうち85人が手術を受けたことが明らかにされた。（84名ががんと確定）

しかし、検討委員会の星座長は、「放射能によると思われる証拠が見つからないので、放射能の影響はないという見解を変えるつもりはない」とコメントした。これだけ発症している小児甲状腺がんの多発に対する対応策を早急に検討すべきだ。

転移の可能性大

前回の発表（2014年8月24日）から手術を行った者が27人増加している（すべて悪性）。今回発表された108人のほとんどが悪性の可能性が高い。検討委員会の席上、「6月10日の甲状腺評価部会で、55人の手術の内、75％にリンパ節転移が見つまっているが、今回手術した85人も同じ傾向か？」という記者の質問に対し、鈴木教授は「同じ傾向」と答えている。つまりこの108名の多くに転移があるという事だ。

A判定（異常なし）から2年間で、がん判定に

昨年4月2日より開始された本格検査の結果が発表され、新たに4人の甲状腺がんないし疑いが見つかった。

今回、鈴木教授は「先行検査でA1判定の2人は、見落としたのではない。前回の検査では何もなかった。A2判定の2人は多発性のう胞で、違う場所に結節が出来た」と述べている。見落としてなければ、2年間で新たにがんが出来たということになる。

県民のみなさまへ

チェルノブイリ原発事故後に明らかになった健康被害として、放射性ヨウ素の内部被ばくによる小児の甲状腺がんが報告されています。

その被害は、事故後28年たった今でも半年に一度の甲状腺検査を実施しているほど深刻なものです。前回の先行検査で「異常なし」とされた子どもから2年の間に4名の甲状腺がん（疑い）が発症しており、また転移の可能性も高いと考えられますので、定期的に検査を受けていただくようお願いします。

<県民健康調査二次検査結果> (2014.12/25発表)

甲状腺がんおよび疑いの子ども 112人

	先行検査結果	本格検査結果
甲状腺がん および疑い	108人	4人 ※4人とも先行検査ではA判定 (A1:2人:A2:2人)
手術を受けた 子ども	85人 ※がん確定84人、良性1人	0人
年齢(震災当時)	6歳～18歳	6歳～17歳
性別	男性38人:女性71人	男性3人:女性1人
腫瘍径	5.1mm～40.5mm	7.0mm～17.3mm

<がんおよび疑い112人の市町村別内訳>

【国が指定した避難区域等の13市町村】

先行検査2011年度実施

4人：田村市 (1名増)
3人：伊達市 (1名増)
2人：川俣町 浪江町 南相馬市 大熊町 (1名増)
1人：川内村、富岡町
0人：飯舘村 広野町 楡葉町 双葉町 葛尾村

【中通り】

先行検査2012年度実施

25人：郡山市 (2名増)
13人：福島市 (1名増)
6人：白河市
5人：二本松市
4人：須賀川市
3人：本宮市
2人：大玉村

前回2014年8/24発表から

- ・赤→本格検査で増加した人数
- ・青→先行検査で増加した人数

1人：西郷村、泉崎村、三春町、石川町、
平田村、棚倉町

【浜通り】

先行検査2013年度実施

21人：いわき市 (2名増)

【会津地方】

先行検査2013年度実施

6人：会津若松市 (1名増)
1人：会津坂下町、猪苗代町、下郷町、湯川村

	先行検査	本格検査
対象人数	36万7000人	38万5000人
対象者	原発事故当時18歳以下	原発事故当時18歳以下+ 事故後1年間に産まれた子ども
実施人数	296,586人 (2014年10/31現在)	82,101人
実施年度	2011年10月～2013年3月	2014年4月～2016年3月
検査期間	3年で福島県内を一巡	2年で福島県内を一巡

くらの

見て歩き



1月31日から、JR常磐線の不通区間のバス代行運転が始まりました。昨秋の国道6号線の通行止め解除をうけ、事故の収束していない原発のすぐそばを通す、無謀な帰還強制キャンペーンの一環です。政府が安全だと言い張る年間20mSv基準は今でもチェルノブイリの強制避難ゾーンです。住民を犠牲にする補償の打ち切りと原発再稼働のための無責任な施策に憤りをおぼえます。

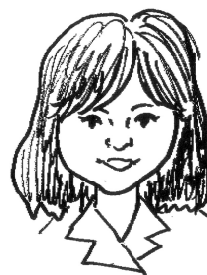
チェルノブイリよりも4倍も高い福島の避難基準

年間放射線量	福島の区分	チェルノブイリの区分
50mSV以上	帰宅困難区域	
20～50mSV未満	居住制限区域（一部帰宅可能）	
20mSV未満	避難指示解除準備区域	強制避難ゾーン
5mSV以上	(居住可能)	移住の義務ゾーン
1～5mSV以上	(居住可能)	移住の権利ゾーン
0.5～1mSV未満	(居住可能)	放射線管理ゾーン

※赤の区分は原則的に立ち入り禁止です

ひさくによる スタッフ

インタビュー



夫、夫の両親
小学生の子ども2人
ろ世代で福島市に
住んでいます。
好きな食べ物はカニです。

医療事務スタッフ
いまいずみさん



最高14.7μSv/h 平均3.5μSv/h の中をバスが走る!?

常磐線竜田駅～原ノ町駅間代行バスにご乗車されるお客さまへ

1 放射線量について

常磐線竜田駅～原ノ町駅間代行バスは帰還困難区域を含む福島第一原発20km圏内を通行いたしますが、お客さまの被ばく線量等については、「帰還困難区域内等の国道6号及び県道36号の線量調査結果について（平成26年9月12日付 内閣府 原子力災害対策本部 原子力被災者生活支援チーム）」によると次の通りです。
(調査実施期間 平成26年7月2日～8月12日)

- 空間線量率
帰還困難区域の道路上の車外の空間線量率は0.31～14.7μSv/h（平均値3.5μSv/h）
- 被ばく線量
国道6号線避難指示区域の南端（楡葉町）から北端（南相馬市）までの42.5kmを時速40kmで1回通行するに当たって受ける被ばく線量1.2μSv/h

2 乗車するにあたっての注意事項

- ・竜田駅～原ノ町駅間の直通バスとなりますので、**途中駅には停車いたしません**のでご了承ください。
- ・竜田駅～原ノ町駅間での**休憩等の停車はいたしません**のでご注意ください。
- ・列車への**接続はいたしません**のでご了承ください。

車内における空間線量率及び被ばく線量について

代行バス車内では乗務員が線量計を携帯しております。実際に走行している地点の車内での空間線量率と合わせ、1回通行するに当たっての被ばく線量を測定しております。希望されるお客さまは、バス乗務員にお問い合わせください。

平成27年1月22日現在

JR東日本水戸支社HPより